

三田理化工業

三田理化工業は2019年11月27日、大阪市内のリーガロイヤルホテルにおいて「創業70周年感謝の集い」を開催し、来賓、業界関係者など約230名が出席した。同社は1949年に三田理化工器製作所として創業し、理化学機器、医療用機器の製造販売、その後調乳装置、自動洗浄機、バイアル瓶洗浄装置、アンプル、バイアル製品など医療機関薬剤部、臨床検査、産婦人科、小児科向けにラックーンブランドとして事業を拡大してきた。現在は薬液自動充填装置、抗がん剤調製支援システムにおいて病院薬剤部等からも注目を集めている。同社ホームページにて公開している70周年の歩み紹介の動画や70周年誌を作成することで、顧客に同社の思いを伝えていきたいとしている。

次のステップである100周年に向けて千種康一社長は、「製薬、研究所、病院、医療関連施設向けの洗浄・滅菌・調乳の機器事業と洗浄滅菌済みの消耗品事業は、肉眼で見えない菌を除去することの戦いである。これからも見えるところ、見えないところでも努力を重ね、また人材を育成して、オンリーワン、ナンバーワンのものづくりを行いたい。少子高齢化による市場の変化への対応、今後拡大が見込める再生医療分野等に向けて、新製品、新サービス(サブスクリプション)の開発や新事業にも挑戦していきたい」とした。

同社は2020年度の全社目標を「道なきところに、道をつくる。成長する組織と環境を整え、健康経営を実現する」と定め、社内組織の再編成、新製品「無菌調製支援システム」を日本医療薬学会併催薬科機器展示会、ワークショップで啓蒙するなど、多様化する薬剤業務の安全性、効率化に貢献していきたいとしている。